

《エターナル・ライフ・メッセージ誌》



● 1・2・3号「私が見た幻」

ラインハルト・ボンケ

証し「村人がみな同じ夢を見て回心した」
「18年間の鼻炎と花粉症からいやされた！」

● 6号「サムソン」

ジャドソン・コーンウォール

● 7号「あなたの手あるものは何か 1,2」

マリリン・ヒッキー

● 8号「人間にあやつられない人」

ジョイス・マイヤー

● 9号「行いの伴う信仰」

ジェリー・クック

● 10号「ビジョンを実現させるために 1,2」

トミー・バーネット

● 11号「霊的成長の九つの妨げ」

ジーン・コールマン

● 12号「時を知る人々」

レスター・サムロール

● 13号「本当のクリスチャンになる方法 1,2」

ジム・バックナー

● 14号「感情のアップダウン」

ジョイス・マイヤー

● 15+16号「世界宣教と国境」

ローレン・カニングハム

● 17+18号「奉仕者が失敗する理由 1,2,3」

ゴードン・リンゼイ

● 19+20号「いやしを受け取る決定的条件」

ベッキー・フェンダー

● 21号「不可能を葬り去れ」

ドゥワイト・トンプソン

● 22号「清い人の八つの性質」

ジーン・コールマン

● 23号「人生のビジョンを実現させる秘訣」

モーリス・シーツ

● 24号「私たちの礼拝の中心」

ジャドソン・コーンウォール

● 25号「聖霊の油注ぎが、くびきを打ち壊す」

ラインハルト・ボンケ

● 26号「祝福の道を捨てた男…デマス」

C.M. ウォード

● 27号「インドの家族に与えられた神の恵み」

サデュナ・ラオ

● 28+29号「必要はすべて満たされた」
「命の法則と死の法則」

ジョン・G・レイク

● 30号「霊的成長の4段階」

ビル・リゴン

● 31号「聖書の経済学…六つの原則」

ロブ・カーマン

● 32号「国家と民族への裁き」

デニス・リンゼイ

● 33+35号「神から送られた人の特徴」

ラルフ・ホランド

「チャーチル親子への祝福」

ロブ・カーマン

● 36号「神との歩み…5段階の成長」

ダッチ・シーツ

● 37号「避けられない誘惑・
退け得る誘惑」

リチャード・エクスレー

● 38号「答えられた子どもの祈り」

ナンシー・ドナー

● 39号「収容所の中で聞いた神の御声」

ジェネラル・リズナー

● 40号「人々のためにあなたにできる
行動」

ジョン・グラハム

● 41+42号「あなたの熱意はどれほど
ですか？」

ベバリー・シェイ

● 43号「おごそかな永遠…その長さ」

サミュエル・ディビーズ

● 44号「イエス様の再臨に備える方法」

ゴードン・リンゼイ

● 45号「聖霊のバプテスマを受けさせる
方法」

フレッド・リンゼイ

● 46号「いなくなった一匹の羊を捜し
なさい」

リッチ・ウィルカーソン

● 47号「パラダイス」

ゴードン・リンゼイ

● 48+49号「霊的汚れ」

ジェームズ・マロッコ

● 50号「愛に動かされる奉仕の働き」

ハイディ・ベイカー



ハイディ・ベイカーはこう述べています。

「私たちが死んで天国に行く時、神がご自分の御子から期待されたのと同じことを、私たちからも期待されると私は信じています。

神は私たちにただ一つの質問をされることでしょう。

「あなたは愛することを学びましたか？」……

ベイカー夫妻の宣教活動については、本誌にこう記されています。



「1995年、ベイカー夫妻がモザンビークに移住したのは、当時、そこが地上で最も貧しい国であったからです。

初めは、ハイディとローランドにはモザンビークで何もありませんでしたが、数ヶ月のうちに、マプトにある破損した孤児院が与えられました。そこには子どもたちが八十人いました。

そこから、このミニストリーは大きく伸びていき、現在は、貧しい病人に無償で施療する病院や、食料援助のプログラム、小学校および中

学校、家内工業なども行っています。

現在、彼らはモザンビークに5000を超える教会を所有しており、20を超える国々で10000を超える教会を所有しています。



現在、彼らの10箇所の拠点、すべてベイカー夫妻のミニストリーで育った人々によって運営されており、数々の聖書学校や、トップクラスの公立学校なども含まれています。

2008年九月、アイリス・ミニストリーズはモザンビーク北部で井戸掘りプロジェクトを開始しました。彼らのミニストリーは、数々の奇跡が報告されていることで知られており、多くの人が死からよみがえらされてもいます」

ベイカー夫妻の宣教活動等の詳細は、ホームページをご覧ください。→ www.irisglobal.org

ハイディ・G・ベイカー師のメッセージは、『愛に動かされる奉仕の働き』（エターナル・ライフ・メッセージ誌50号）をお読みください。

ハロルド・A・ベイカー夫妻（ハイディ・ベイカー師の夫であるローランド・ベイカー師の祖父母）は、アメリカ人宣教師として、中国の雲南省にて孤児たちのためのアデュラム救済ミッションを発足させました。

その時期の聖霊の大いなる傾注については、「終わりの時代の出来事」（ハロルド・A・ベイカー著）をお読みください。

● 51号「困難な道の必要性」

マリオ・ダシック

● 52号

「神との交わり」

ラリー・ヒル

「何が循環を断ち切ったのか」

フレdda・リンゼイ

● 53号「あなたの口に金がありますか？」

パトリア・フィップ

● 54～58号「天国」

オーデン・ヘトリック

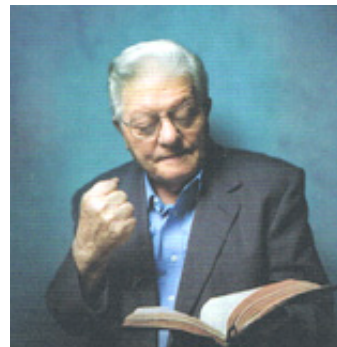
オーデン・ヘトリック師は幾度も天国を訪れています。天国の聖なる都、命の木、命の川、邸宅、神の御座、天国の海、天国の人々の交流など、すばらしい体験を証言しています。



● 59号「おとり」

エリック・ベルヒャー

著者はアメリカC F N I 聖書学校の副学長であり、このメッセージは2010年、アメリカC F N I 聖書学校にて教職者向けに語られたものです。興味深いメッセージをお読みください。



《ごまかしのない人とは？》

「ごまかし」という語は、「おとり」を意味する語としてぴったりのことばです。ニュージーランド出身の私は、カモ猟をした人々を大ぜい知っています。ハンターたちは、池におもちゃのカモを「おとり」として置きました。

カモに似ているそのおもちゃは、ほかのカモたちをその池に引き寄せました。その「おとり」は本物のカモではありませんでした。それは偽物でした。それは、ほかのカモたちを惑わして、その池が舞い降りても安全な場所だと思い込ませたのです。

全く完璧なクリスチャンであるかのように見えるのに、人をだます人たちがいます。なぜなら、彼らは本当はクリスチャンではないからです。彼らには、ごまかしがあります。彼らの表情も行いも話しぶりもクリスチャンのようであり、私たちは彼らをクリスチャンとみなしていますが、彼らは人をだますのです。

なぜなら、彼らは「おとり」たちだからです。

…… (59号より抜粋)

● 60号「教会への六つのメッセージ」

ブラニ・デュオン

2006年5月、一人の神のしもべが天国に案内され、主イエス様とお会いし、六つのメッセージを受け取りました。



ブラニ・デュオンは牧師として奉仕した後、2005年から2006年まで教会指導者となり、現在は東マレーシアのボルネオ福音教会で教会長老として奉仕しています。



● 61号「ロック音楽とサタン崇拜」

DIAGNOSEN 誌

● 62+63号「麻薬常習者の体験」

ティモシー・ラフォンド

● 64号「地獄に通じる門」

クイーン・E・ディクソン

● 65号「シナイ写本とバチカン写本の検証」

フィリップ・マウロ

● 66号「聖霊の大いなる傾注」

ハロルド・ベイカー

中国の子どもたちへの聖霊の傾注



著者ハロルド・A・ベイカー（1881年～1971年）は、宣教師として、チベット、中国、台湾で伝道しました。中国の雲南省では、彼は妻とともに孤児たち（おもに六歳から十八歳

までの少年たち）のためのアデュラム救済ミッションを始めました。本誌には、その時期の聖霊の大いなる傾注について紹介されています。

現在、彼の孫であるローランド・ベイカーは、妻のハイディ・G・ベイカーとともにモザンビークにて宣教活動を大きく展開しており、モザンビークで5000以上の教会を設立し、二十ヶ国以上の国々で8000以上の教会を設立しています。彼らの働きでは数多くの奇跡が報告されています。

ハイディ・G・ベイカーのメッセージは、『愛に動かされる奉仕の働き』（メッセージ誌50号）を参照ください。『終わりの時代の出来事』には66号～74号の内容も収録されています。



● 67号「聖霊の超自然的現れ」

ハロルド・ベイカー

● 68号「子どもたちが見た幻」

ハロルド・ベイカー

● 69号「天国を体験する子どもたち」

ハロルド・ベイカー



● 70号「悪霊を見て追い出す子どもたち」

ハロルド・ベイカー

● 71号「少年たちが見た地獄の光景」

ハロルド・ベイカー

● 72号「福音を拒んだ人々の最後」

ハロルド・ベイカー

● 73号「世の終わりとキリストの再臨の啓示」

ハロルド・ベイカー

● 74号「パラダイスと天国の動物たち」

ハロルド・ベイカー

● 75号「聖霊をもっと深く知る秘訣」

ハイディ・ベイカー師へのインタビュー（著者 ケリー・ヘッド）



ハイディ・ベイカーはこう述べています。

「聖霊は私の友であります。私は彼をととても愛しています。

私にとって、聖霊と知り合いになることは、一つの言語を知る、あるいは学ぶようなものです」

「神の御臨在の中にいる方法」「聖霊を知ること」「祈り」「神様への飢え渇き」等について、その秘訣を知ることができます。

★「終わりの時代の出来事」（ローランド・ベイカー著）・
「愛に動かされる奉仕の働き」（ハイディ・ベイカー著）
とともに、おすすめのメッセージ誌です！

